

## 平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 吹田市

実践研究校名 千里たけみ小学校

【公開授業】公開日：平成25年12月6日

対象学年：第5学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 Lesson 7 (单元名) What's this? クイズ大会をしよう	(本時の指導の目標) ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現を積極的に使い、会話を楽しむ。
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・自分なりにクイズのヒントを考えさせるようにした。
- ・一人ひとりが必ず誰かとコミュニケーションがとれるようにした。
- ・言わせるだけの授業にならないようにと講師先生から助言をいただいていたので、考えることをたくさん取り入れるようにした。
- ・アルファベットの学習をしたときに、クイズ大会のポスターを作るなど、前回に学習したことがつながるように考えた。

(授業を終えた教員の感想)

- ・児童一人ひとりが、自分なりの表現をしていたのがよかった。
- ・児童が「楽しかった!!」「がんばった!!」と感想を言ってくれたことで、これまでの努力が報われ、充実感を味わうことができた。

【研究協議会】

(テーマ) 外国語活動から英語科へのスムーズな連携と9年間のカリキュラム研究	(指導・助言者) 大阪成蹊大学 マネジメント学部マネジメント科学部長 國方 太司 先生
---	---

(研究協議会で出された意見)

- ・「相手とのコミュニケーションを図ろうとしているか」に主眼をおいて指導していることがよくわかった授業であった。
- ・英語を聞く姿勢が身につけているので、課題にしっかり取り組んでいた。
- ・クイズに単に答えるだけでなく、質問する役も子どもたちが担っている点が良かった。
- ・2つのグループに分かれて、交代で別のパートの店番をするという、授業のバリエーションが上手くいったと思った。時間が来ても「もっとやりたい!」と思わせる素晴らしい授業だった。
- ・クイズ形式を使うことで、子どもたちがどんどん2つのポイントに集中して学習できていた。

- 子どもたち一人一人が、英語を楽しみながら学習している様子がよくわかった。
- 公平な評価をどのようにしていくのか疑問に感じた。

(まとめ)

1. 小学校での英語に対する音の気付きを生かして、音の作り方をわかりやすく教え、日本語と英語の音の違いを理解させる。
2. 文字認識に個人差があることを踏まえて、文字指導を丁寧に、計画的に行う。
3. 聞いて理解でき、言えるようになってから「読む」「書く」に進むという指導手順を守る。日本語での説明は簡潔に短く。
4. コミュニケーションはメッセージのやりとりであることを意識して、コミュニケーションと結びつく文法指導と習熟練習を行う。
5. 小学校で培った気付きや発見をさらに生かして、発達段階に応じて日本語と英語の様々な違いや文化の違いに気付かせ、考えさせ、社会的な問題に対して積極的に関わる態度を養う。
6. 類推しながら学習する、英語を使いながら学ぶために、以前よりレベルをあげたリスニング活動や表現活動に取り組む。
7. 様々な社会資源を利用して、英語を学ぶ方法を紹介し、家庭学習の仕方を指導する。